「山梨の魅力メッセンジャー認定講座」実施報告書

NPO 地域資料デジタル化研究会

＜平成 15 年度山梨の魅力メッセンジャー認定講座について＞

・NPO 地域資料デジタル化研究会は、山梨県の平成 15 年度「山梨の魅力メッセンジャ ー」認定講座に協力し、県立女子短大学で開催された対象講座（コーディネータ八代一浩先生）に講師５人を派遣した。今回の受講者は１６５名（県立女子短大 1 年生 107 名、2 年生 57 名、社会人 1 名)、講義はネットワーク中継された。

＜講座の概要＞

・ 山梨県（県商工労働観光部産業交流課所管）は県内の大学院、大学、短大、専門学校の学生を対象に、山梨の良さを全国に宣伝してもらうことを使命とした「山梨の魅力メッセンジャー認定制度」をスタートさせ、今年で３年目を迎えた。山梨県立女子短期大学で開催した講座では、１.「山梨の歴史」２.「山梨の産業」 ３.「山梨の文化」４.「山梨の観光」の各項目について講義と現地視察で学び、修了生には山梨県知事から「山梨の魅力メッセンジャー認定証」が授与された。

＜山梨県立女子短期大学　山梨の魅力メッセンジャー講座「地域社会の課題と展望」日程＞

* 第 1 部「山梨を知る」
    - o 2003 年 9 月 2 日(火): 10:30 - 16:00: 集中講義
      小林是綱 甲州方言は日本語の宝庫
      中澤京子 郷土風景に見る山梨の歴史文化
      井尻俊之 山梨の魅力とは何か、どう発見するか レジメ(資料 1)レジメ(資料 2)
    - o 2003 年 9 月 3 日(水): 10:30 - 16:00: 集中講義
      丸山高弘 情報とは In・for・mation である。
      中澤京子 郷土風景に見る山梨の歴史文化
      舩木上次 ポールラッシュとその後
      パネル 山梨の魅力―過去、現在、未来
* 第 2 部「山梨を調べる」
    - o 2003 年 9 月 4 日(木): 8:30 - 17:00: バス視察 資料
    - o 2003 年 9 月 5 日(金)～9 月 22 日: 自主調査
* 第 3 部「山梨の魅力を伝える」
    - o 2003 年 9 月 8 日(月): ホームページ作成講座
        - + 説明資料(PDF)
        - + ファイル転送の方法(PDF)
        - + 注意：
    - o 2003 年 9 月 5 日(金)～9 月 22 日: ホームページ作成
      グループごとに山梨の魅力ホームページを作成
* ホームページ評価開催日時
    - o 2003 年 9 月 23 日(金)～9 月 30 日:
    - o 実施場所：山梨県立女子短期大学

＜NPO 地域資料デジタル化研究会講師の講義概要＞

9 月 2 日（火）講義

Ⅰ　10:30－12:00　小林是綱　　『ことばをテーマに山梨を見る』

○　デジ研の活動（ビデオ上映による、活動紹介）

・「山梨デジタル版方言集 2003」の紹介。八ヶ岳ことばの学校からの依頼により企業ではあり得ない金額でこの事業が行われたことを紹介。

○　ことばの文化　日本語の宝庫　　＜甲州方言は日本語の宝庫＞と題して、講義が行われた。

要点として、

- 方言は単に田舎言葉というのではなく、語彙・語法・音韻・アクセント合わせて研究対象。
- 山梨方言の中に今も上代（古事記・万葉集の頃）の日本語が方言として生きている地域があること（早川町奈良田）
- 中世から混用（出る・出来るの違い）されている言葉があること
- 近世のことばのルーツ（ヨタイ・タダイマ・セイダなどの言葉）について触れ、山梨の方言の特徴を紹介。
- 若者ことば「ジャン」。甲州が発祥の地であるいわれ

最後にメッセンジャーたちへのメッセージとして、「自分の言葉としての自分の文化、方言をしゃべって恥ずかしいと思うことは、自分自身を恥ずかしいと思うこと、しかし公的の場で使うことは相手に理解されないことがあるので、コミュニケーションをとる上できちんと使い分ける必要がある。また、世代に伝える言葉として「ケケル」という方言を残したい。自分の目線より上に物を載せるときに使う言葉だが、これは物を大切にするという気持ちの表れ。しかし、この言葉の語源はわかっていない。」としめくくりました。メッセンジャーたちにより「ケケル」と言う言葉が、新たな発見とともに残されていく事を期待したいものです。

Ⅱ．12:50－14:20　中澤京子　　『郷土風景に見る山梨の歴史文化』

○　山梨の県民性を作っているものは・・内藤友義の著書による山梨の県民性を紹介。山梨にいて山梨の人と付き合ってばかりいるとごく当たり前のことが、他の県の人にとって違和感を感じることもあるのだと思う。それが県民性である。県の位置、地形、気候から生まれてくるものであると思う。

○　郷土風景にみる歴史、文化

・約 1 年前、自らがデジタルアーカイブした「郷土風景―創作版画とそのつくり方―」（昭和 8 年 9 月 20 日出版）を通して、70 年前の山梨を見てみる。昭和初期のメッセンジャーたちが紹介している山梨は、現代に通じる山梨を知るためのよい資料であると紹介。「郷土風景」の時代には、軍国教育をせざるを得ない状況にあった。「郷土風景」の自由な思想の背景に、当時の世相への静かなレジスタンスを感じると述べた。

・版画のホームページから・・・絵と解説を交えて紹介。「冬の荒川橋」「甲府八珍果」「停車場スケッ

チ」、空襲にも焼けずに残った甲府駅を紹介し、昭和 61 年かいじ国体を前に今の姿になった。
更に、「甲府城跡の謝恩碑」「縣庁の横顔」。現在の本館は昭和 38 年に建てられたものだが、旧館は昭和 5 年に建てられ、現在も少し古びているが、どこをとっても美しい芸術の香り高いものであると説明。当時 104 万円の経費を投じたとあるが、当時の県予算の 1/4 にあたる金額だった。何とか今後も残していきたい歴史的建築物であり、いつでも見学できる事を紹介した。
更には、「名産水晶」「濁川のほとり」「躑躅ヶ崎と貯水池」「葡萄酒醸造場」「霊山身延」「武田神社の大鳥居」。武田神社の儀式殿「菱和殿」の天井には、甲斐八珍果がテーマのひとつとして描かれているので、バス見学で行かれる方はぜひ見て欲しいと紹介した。また「製紙工場」では、養蚕が盛んだった峡東地方の甘草屋敷にふれ、養蚕に向いた造りである切妻出窓屋根様式を紹介。「信玄堤と信玄橋」については、ビデオ鑑賞により説明があった。
・最後にメッセンジャーたちへのメッセージとして、若さと自由さで山梨を知り山梨を好きになり
多くの人達に山梨をアピールしてほしいと述べた。

Ⅲ. 14:30 - 16:00 井尻俊之 「武田信玄と山梨の物産」
○ 山梨の魅力とは何か、どう発見するか
1． 教えるということ、学ぶということ
・ 私個人が皆さんに伝えることには限界がある。世代断絶の時代である。私たちの世代の生活価値を押しつけても、皆さんには理解しがたいものになり始めている。ここで、どういう学びが成立するか、自分で考えねばならない。
・ 私の話をヒントにして、自分自身で発想してほしい、そしてそれをまた情報として返してほしい。
・ パラダイムとは・・生活の基盤、判断の基準が変わること、時代にあった意味合いを与え、伝えるのはあなた方である。
・ 学ばなければならないのは、先輩たちの知恵・努力。皆さんが受け継ぎ、時代を超えて伝えていかなければならない。（富士川の水害克服の努力など）
・ 知識の中身は時代とともに変わる。自分自身の目・耳・頭で考え、価値を見出して欲しい。
・ インターネットの普及と検索エンジンの登場により、情報時代の中で、皆さんの個人個人の情報や知識が人類の知識と発展に役立てることの出来る時代になった。ネットに公開された情報はどこかにリンクされている限りほぼ 100%、誰かに発見され、利用してもらえる。
・ 皆さん自身がメディアを持つというのは、人類初めてのことである。学ぶことが自分の為だけでなく、人のために役立たせるべきである。

2． 山梨の魅力とは何か、どう発見するか
・観光ということ・・他の土地の文化・風俗・風景などを見物してまわること、またその風光など
を見物することである。発見の軸は自分自身、その土地の風を見る・光を見る・希望を見るのである。
・山梨の地勢が地域のくらしに与えるもの
山梨県の偉大な俳人・飯田蛇笏さんの名句に「芋の露　連山影を　正しうす」というのがある。
甲府盆地に立つと、周囲に山並みが屹立し、屏風のように四方にたちはだかっている。

「山のあなたの空遠く、幸住むと人のいふ」（カール＝ブッセ）
山の向こうに何があるのか、思いをはせる。山梨の人々の基本的な心・価値観の軸がここにある。

３．　フォッサマグナ～世界屈指のプレート造山運動

・山梨県は、地上部では世界でただ 1 箇所だけ、3 つのプレート（北米プレート、アジアプレート、フィリピンプレート）が衝突している特異な場所である。明治時代にドイツから招聘された地理学者ナウマン博士が発見、命名したフォッサマグナは、本州を２つに割り、山梨の周囲に日本の最高峰を屹立させている。

このプレート衝突により、山梨にはいたるところに断層があり、災害の危険を日常的にもたらしている。しかしこの大規模な地殻変動により、山梨の自然景観は変化に富み、美しい四季のうつろいが、私たちに生活のうるおいを与えてくれる。

・フォッサマグナをひとつの切り口として発見の軸とするならば、地殻を揺るがす造山運動により日本百名山・日本百名水が生まれ、水晶を絞り出し、温泉を恵み、扇状地の発達による果樹の生産を生む。日本一から日本一とどんどん新しいものを生み出す。発見の軸を見つけることによって、いろんなものがリンクし、物事を理解することが出来る。これはあくまでもヒントであり、皆さん自身が発見の軸を見つけて欲しい。

４．　今なぜ武田信玄か、歴史が現代人に勇気を与えること

・　武田信玄に公をつけて敬う。それは、我々が勇気付けられ、希望を与えられているからである。

9 月 3 日（水）講義

Ⅰ．10:30－12:00　丸山高弘　「情報とは inform‐ation である」

○　ここでは、情報をどんな形で伝えるか、その心構え、方法。

・information を分解すると、in（入れる）form（構造・型）ation（～すること）で、「ひとつの形に入れたもの（入れること）」となる。しかし、“ 何を？ ” という、大切な中身を意味することばがない。つまり、あなたが伝えたいことを information することが大切。

・世の中にはどんな form があるか紹介。新聞・雑誌・週刊誌。新聞などはフォームから受ける印象で、そこに書かれていることは正しいと判断してしまう。それは、メディアの面白さであり、怖さでもある。

・4CutsＣＭの紹介・・ひとつの表現方法としてオリジナルの 4CutsＣＭを紹介。4 つの写真を流す間に、短いセリフを挿入。制限することで、表現の広がりから、深みへ変わる。凝縮された形で相手に伝えることで、印象を残す。information にとって大事なことである。相手にどういう印象を残したいかを考え、思いを伝えるための感覚はどうやって養われていくかということを、意識的にやってみるとよいのでは。

・インターネットを沢山見よう・・・「お気に入り」から「伝えたいこと」と「形」に分解すると文

字・書体・大きさ・色などから､自分のスタイルが見えてくる.

・デジカメを活用しよう・・・自分がその場に行って何を感じたかと言う記録を撮るのに、カメラは是非持っていって欲しい。何をとりたいか判らなくなったときには､「わぁ、すごい」と思った瞬間に撮る。そういうときにいい写真が取れるものである。

・メッセンジャーへのメッセージとして、感動する癖をつけて欲しい。また、表現に制約をつけることで、深く表現することが出来る。そうやって自分の思いを伝えて欲しい。

Ⅱ．12:50－14:20　舩木上次　㈱萌木の村社長　「ポールラッシュとその後」

○ 小林理事長による講師の紹介：日本の観光カリスマで山梨県では第 1 号。観光にエネルギーを注ぎ、知恵と努力とセンスを持ち込んで頑張っている人物である。

〇舩木社長の講義概要

・感動について・・「清里フィールドバレエ」を生で見て欲しい。人と人とが出会って初めて伝わる感動、出会いがなければ感動はない。「自分のやったことで、他人が感動すること」それが一番面白い感動である。それを知ったときに、人間は強くなれる。

・自分の能力の中に、小さくても人を感動させることが出来る、そういう生き方が、その人の気品や美しさに繋がるのである。そのために、素敵な生き方を見つけて欲しい。

・どういう人生が豊か・・人生を振り返り、感動が沢山あって、それを語れる人生が素敵だと思う。自分の物語を作って欲しい。自らを追い込まないと感動は手に入らない。目に見えるものより、目に見えないものの方がよっぽど大事である。リスクがあっても、外へ出て今自分が何をやるべきかを､真剣に考えるべき。感動をするために頑張れば､相手からも感動を得ることが出来るのである。身近なことから一つ一つ積み上げることをひとつの目的にして欲しい。

・何のために産まれ、何をしようとしているか？何を求められているか？その答えを探すために、今から旅立ちをして欲しい。

Ⅲ．14:30 - 16:00　講師によるパネル討論会シンポジウム～学生との意見交換

○ 学生さんからの質問に、2 日間講義をした講師（小林理事長・中澤さん・丸山さん・井尻さん・舩木さん）が答える形式で行われた。

○ 質問（一部抜粋）

〈学生〉愛知の友達と「じゃん」についてその発祥の地が、山梨か愛知かで争っているのだが、本当のところはどうか？

〈小林〉三河と言う説もあるが、是非研究して一緒に考えよう。

〈学生〉これからの清里は、開拓を進めていくのか？自然を守るのか？どちらのスタンスですか？

〈舩木〉楽しくて生きがいの持てることをやっていきたい。その土地で採れたものを食べ、その地で消費していくそういう街づくりをしたい。むしろ、東京などに別の価値感を提供し、それに伴う、交流人口が増えることを期待したい。

〈学生〉今回、清里の話が沢山出たが、甲府や勝沼などが活性化するにはどうしたらよいと思うか？

〈井尻〉清里には、舩木さんのような熱い人がいるから滅びない。街を面白くしようとする、個人の思いが大切。街の中に光を見ることが大切、誰が発しているだろうか？この街をどうしていきたいか？明日のツアーの行く先々で聞いてみよう。

～最後に、講師の方々から～

メッセンジャー講座で見つけたものを本当に好きになって、伝えて欲しい。出会いを大切に、心の繋がりが山梨の魅力に繋がる。また、今回の講座はごく一部のことであり、ヒントに過ぎないので発想を豊かにして、それを消化し自分の目で見つけて欲しい。明日の成果を期待している、と言うことばがあった。素晴らしい「山梨の魅力メッセンジャー」になってくれる事を期待したい。

（以上）

●山梨の魅力メッセンジャー制度について（山梨県庁ホームページより抜粋）

１．事業の目的

当制度は、山梨県で推進している「ビジターズ・インダストリー」の一環として実施されている制度です。

山梨県内に長期滞在する大学生・短大生などが、卒業し県外へ移住しても山梨のファンで居続け、山梨の広報マン（ウーマン）として口コミで山梨県内の情報を伝えていただくことを目的にしています。

なお、講座修了者に対しては山梨県知事より「山梨の魅力メッセンジャー」として認定証が交付されます。

２．　全国初の制度

当制度は「住んでいる自分たちが誇りを持てないところに、人は来ない」というビジターズ・インダストリーの考え方から生まれた企画です。 観光客に対する『もてなし度』を上げ、地域のファンになっていただくという取り組みは各都道府県等で行われていますが、対象を学生に限定し、地域の魅力をよく知ってもらうという取り組みに対して、県が制度を創設するという取り組みは全国初めてです。

また、県が推進している、集客・交流をとおした産業・地域活性化施策である　『ビジターズ・インダストリー』と、「少子化時代」を迎えて大学が「全入時代」となり、『地域にとって存在感のある大学づくり』という方向性が合致した制度でもあります。

〔参考（データは平成 13 年度のもの)〕

・山梨県を訪れる県外からの観光客数＝年間約２，６００万人・・・・・１日あたり約７．１万人

・山梨県に滞在する大学・短大生数＝約１．８万人・・・・そのうち、県外出身者は約１．３万人

３．制度の内容

（Ⅰ）　「メッセンジャー」として認定されるには、以下の要件が必要となります。なお、現地視察での視察先や講義のテーマ等は実施する大学等と山梨県が協議をして決定します。

①：山梨県内の各施設を見学する「現地視察」への参加（概ね２回実施）

②：山梨県内の産業界等で活躍される方々による「講義※」への出席

③：①・②の終了後のレポート

⇒「山梨の魅力メッセンジャー」認定要領

（※山梨学院短大においては、同短大の講義である『コミュニティ・ビジネス論』とタイアップして実施）

（Ⅱ）当制度を受講できるのは、山梨県内の大学・短期大学に在籍する学生に限られます。なお、出身地については県内外を問いません。

（Ⅲ）認定者に対しては、山梨県知事より認定証が交付されるほか、「山梨ビジターズ・ネット」に登録され、山梨県内の多くの情報を得ることができます。